

2019年11月7日
九州旅客鉄道株式会社

2020年3月期第2四半期決算説明会 主なQ&A

Q：不動産・ホテルセグメントについて、2Q実績で30億円の減益であるが、収益費用計上区分の変更、ホテルの開業費用を除いた実力ベースの数値を教えてください。また、来期の見通しはどうか。

A：収益費用計上区分の変更による影響が27億円、2つのホテル（日比谷、博多）の開業費用が数億円あり、これらの特殊要素を除けば対前年で数億円の増益であった。

今期は日比谷と博多におけるホテルの開業があった。来期も宮崎での駅ビルの開業があり、新しい開発による開業経費も想定されるが、若干の増益を見込めるようにしていきたい。

Q：2021年度まで配当93円を下限とする考え方について、DOEの導入なども検討したのか。あるいはこれからあるのか。

A：配当93円を下限としたのは、株主、投資家のみなさまに安心感をもって頂く目的で設定した。中計策定時から株主還元については様々検討していたが、海外を含めた様々な投資家と話をするなかで、配当を下限設定した方がより分かりやすいと思い、今回実施した。今回変更した還元方針は、中計の残り2年半は適用するが、今後DOEの採用を否定するものではない。

Q：自己株式の取得は状況に応じて実施するとあるが、具体的にはどのような事を想定しているのか。他社事例では株価低迷を判断基準にするところもあるが、教えてください。

A：バランスシートの右側に課題があるのは事実だが、一方で鉄道事業の収益性が厳しいことを踏まえると、財務健全性を高い水準で維持しておく必要がある。自己株式の取得については、業績の動向や株価などを総合的に勘案しながら、今後も機動的に実施していきたい。

Q：第1四半期決算後に、2030年に向けた財務戦略を示したいと語っていたが、今回の還元方針の変更が該当するのか、あるいは年度末までに他の発表があるのか。

A：資本効率の変化は中長期で考える必要もあるし、目安として、BSのターゲットを決めなければならないと考えている。2030年の目標を定性的なものに留めるのか、定量的なものにするかは、これから考えていきたい。

Q：財務戦略の検討状況について、D/E レシオの目安や時間軸の考え方について教えてほしい。

A：D/E レシオは期末見込みでも 0.2 程度であることから、短期間で引き上げるのは難しい。一方で、今回の株主還元方針の変更や自己株式の取得は、資本効率に着目した上での戦略である。D/E レシオの引き上げは課題として認識しており、取締役会でも議論しているところである。時間軸やターゲットについては、引き続き検討していく。

Q：資本効率の改善について、中計の ROE8% は参考指標であったが、重要性を持った KPI として取締役会で議論が進んでいるという理解でよいか。

A：その理解で間違いない。ただ、マネジメントとして減益に甘んじているわけではない。ROE を上げるためにエクイティを下げるということは一つの手法であるが、一義的には ROE の R（リターン）をいかに上げるかが重要だと考えている。取締役会でもどのように R を上げていくかを議論しているところである。

Q：不採算路線に対して民間企業としてどうしていくのか、社内でもどのように議論しているか教えてほしい。

A：不採算路線については、2 年前にダイヤ見直しで本数を減らしてきた一方で、鉄道事業としては安全を守らなければならない。今後については中計で記載したように、鉄道に拘らずモビリティの提供に踏み込むと記載している。鉄道事業は厳しいが、インフラを担う会社として交通ネットワークの維持はやっていかななければならない。このような考えを元に 5 月に第一交通さま、10 月に西日本鉄道さまと連携したところである。

以上